

研究・調査報告書

報告書番号	担当
490	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol and endometrial cancer risk: a case-control study and a meta-analysis アルコールと子宮内膜癌リスク: 症例対照研究およびメタ分析	
執筆者	
Turati F, Gallus S, Tavani A, Tramacere I, Polesel J, Talamini R, Montella M, Scotti L, Franceschi S, La Vecchia C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Causes Control. 2010;21:1285-96.	
キーワード	
アルコール、子宮内膜癌、症例対照研究、メタ分析	
要 旨	
目的: 飲酒と子宮内膜癌との関連を評価すること。	
方法: 病院ベースの症例対照研究を行った。1992年から2006年までの子宮内膜癌454例と対照として年齢をマッチさせた同病院の入院患者908例を対象とした。またメタ分析として、2009年10月までのデータを用いた。	
結果: 非飲酒者と比較して、子宮内膜癌に対するオッズ比は、週7回以下の飲酒群1.03(95%信頼区間CI 0.76-1.41)、週8-15回の飲酒群で1.27(95%CI 0.86-1.87)、週15回以上の飲酒群で1.19(95%CI 0.80-1.77)であり、またリスクの傾向も認めなかった。ワイン、ビール、スピリットの種類別でそれぞれ解析を行ったが、子宮内膜癌との関連は認めなかった。 メタ分析では20の症例対照研究、7つのコホート研究、合計13120症例を対象とした。非または低飲酒者と比較して、飲酒者の相対リスクは症例対照研究で0.90(95%CI 0.80-1.01)、コホート研究で1.01(95%CI 0.90-1.14)、および全てで0.95(95%CI 0.88-1.03)であり、研究デザインに不均一性はなかった(P=0.156)。また非または低飲酒者と比較して、高飲酒者では相対リスクが1.12(95%CI 0.87-1.45)であった。結果は、選択した研究の特徴、地域性、飲酒者の定義、症例対照研究のタイプ、いずれにおいても一致していた。	
結論: 飲酒は子宮内膜癌のリスクと関連は認めなかった。ただし、かなりの高飲酒者については、弱いながらも正の関連があることを除外できない。	